

春節の2月

さて再び明けましておめでとうございます。タイトルの通り今年2月は中国で重視されている旧正月、春節のある月だ。この月、学生は冬季長期休暇があり、春節の前後は多くの企業や商店も休暇をとる。

月初め、私は中国南部雲南省の省都であり最大都市である昆明に行き、中国人の知人と会った。南方の街並みは、中国の北方とはかなり雰囲気が異なっている。方言も人々の習慣も異なる。昆明では、昆明理工大学を訪問し、学生や大学関係者と交流した。昆明では雲南大学も訪れた。山西大学が平地に建ち直線的な道が広がっているのに対しその大学のキャンパスは、門をくぐれば階段から始まり、内部は南方の植物が生い茂っている。以前吉林财经大学や北京語言大学に滞在したことがあるが、北方のキャンパスのつくりはある程度共通しており、雲南大学とは地域差を感じた。数日間昆明理工大学に滞在した後、同省の観光地として有名な麗江を訪れた。麗江には、麗江古城という世界遺産に登録された旧市街地があり、古い建物の中に現代的な店を含む様々な商店が並ぶ。麗江では、知人の親戚が経営する宿に滞在し、経営する一家に温かくもてなされた。

麗江を離れた後は四川省成都へ向かった。成都では、麗江古城のように古い建物の中に商店が並ぶ錦里などを訪れたほか、西南民族大学を訪れ、留学生と交流した。その大学は少数民族と関係のある大学で、少数民族の文化などを学ぶことができる。建物に民族文化が反映されているだけでなく、周囲にも少数民族の商店街などが多くある。その後訪れた四川大学も独特で、現地の伝統的な様式でつくられた建物が多くあった。

その後は山西省平遥の古城を訪れた後、同省運城の友人の家で春節を過ごした。周りの商店街はほとんどシャッターがしまっており、爆竹の音が常に聞こえる中、餃子を食べた。春節に餃子を食べるのは中国北方地域の習慣だ。運城ではその友人が管理している、空港内の職場を訪れた。中国の職場環境などについて意見を交わすなかで彼は、中国では多くの企業を国家が担っており、利益も国家が調整しているため効率ばかりを追い求める必要がなく、個人が快適に働ける職場を築くことができると述べ、それは中国の社会主義の長所だとした。

春節の連休は同省大同で過ごした後、内モンゴルへ向かった。その時期内モンゴルでもやはり営業している飲食店を見つけるのは容易ではなかった。内モンゴルでは現地の民族の文字で書かれた看板を多く見かけるなど、民族の文化が感じられた。砂漠のある地域も訪れたが、砂の下に積もった雪があるなど、独特の自然環境を見ることができた。

私は今月多くの場所を回ったが、様々な地域を訪れ、そして様々な人々とふれあうことは、そこでの経験を通して新たな視野を生み出し、また有益な機会を得られるものだと実感している。



麗江古城の水車前にて
近くには世界遺産の碑がある



平遥古城



内モンゴル フフホト



麗江古城にある革命の碑